

古いなんて言わせない進化する八王子

八王子の伝統を世界へ発信

An idea for making Hachioji's traditions familiar with more people

チーム：彼岸花

岡本友華 阪井千華 武田幸江 吉田由美 指導教員：水元 昇
創価女子短期大学 国際ビジネス学科 水元研究室

伝統工芸品をこれからも守り続けるために、食・雑貨などの身近に感じる物から手に取りやすい商品を考案する。八王子で栽培されている「東京いちじく」と共に伝統工芸品に興味を持ってもらい多摩織の技術、品質の良さを再確認できる機会作りを提供。老若男女問わず世界の人に八王子の伝統、街の魅力を感じてもらうために3つの観点から企画を提案する。

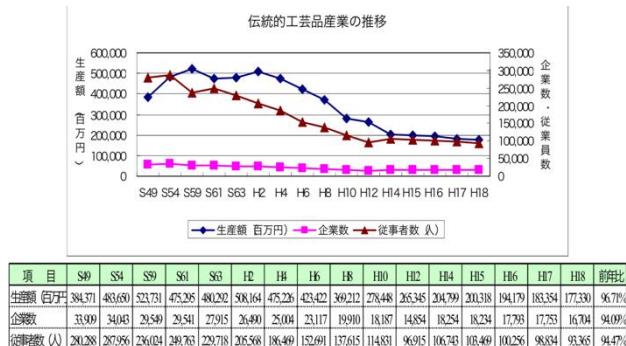
キーワード：多摩織、東京いちじく、SNS、ハンドメイド、オンラインショップ

1. はじめに

八王子について調べると伝統的工芸品、多種の野菜・フルーツが栽培されていることが分かった。私たちは多摩織・イチジクを使い時代にあった商品をつくると共に伝統を守っていく事を提案する。

2. 現状分析

経済産業省製造産業局伝統的工芸品産業室の調査によると、伝統的工芸品産業は需要が低迷し、生産額はピーク時の昭和59年532,731（百万円）から平成18年177,330（百万円）に減少。



理由として国民の生活様式や生活習慣の変化。生活用品に対する国民意識の変化が挙げられる。また人材・後継者不足、産地の知名度の不足などの課題がある。若年層に伝統工芸品に対する体験や知識を広める事。利便性と機能性を重視する生活へと変化しているため日頃手に取りやすい物にする。知名度を上げるためにソーシャルメディアによる販路の拡大で八王子の伝統工芸品を広めていきたい。〈事例〉株式会社 ECOMACO は白無垢を現代

の生活に合わせたポーチなどの小物雑貨を商品として開発しおもてなしコレクション受賞。

写真①



3. 提案

1. イチジクジャム with 多摩織

私たちが毎日行う食事を通じて多摩織の商品を知ってもらう。また八王子の農業にも興味を持ってもらうために八王子で栽培されている「東京いちじく」ジャムを作り、飾りのついた瓶で発売。写真②のように瓶の蓋に多摩織を使用。ジャムを食べ終わった後、蓋はコースターとして使える。写真③のように多摩織でつくった折り紙バッグに入れる。手土産にも最適でバックとしても使える。また海外観光客の人達にも折り紙の様

写真②



写真③



に折ってバッグにする点で興味を持ってもらえる。SNSで目を引く様なデザインにしたり、道の駅での販売、ふるさと納税品の返礼品として活用。

2. 多摩織の端切れを活用

若年層の方に多摩織を手に取ってもらいやすくするため、端切れを使ってアクセサリーやおにぎ

りケースなど若い人が日常で使いやすい物にする。またハンドメイドの雑貨が作れるイベントを開催。雑貨作り体験を通して小さいお子様にも多摩織に触れる機会を提供。アプリを使ってハンドメイド作品を出店する事で知名度を上げる。

3. 販路開拓

JTB 総合研究所によると 20 代の女性は、ものづくり体験は「旅行先でしてみたい」、購入は都市部の「お洒落な雑貨店やセレクトショップ」が多いことが分かった。上記の事からセレクトショップでの販売・旅行プランに体験プランを入れる。また全日空が開設した通販サイト「WAYO」で販売することで若年層のみならず海外の方にも興味を持つてもらえる。

4. イチジクについて

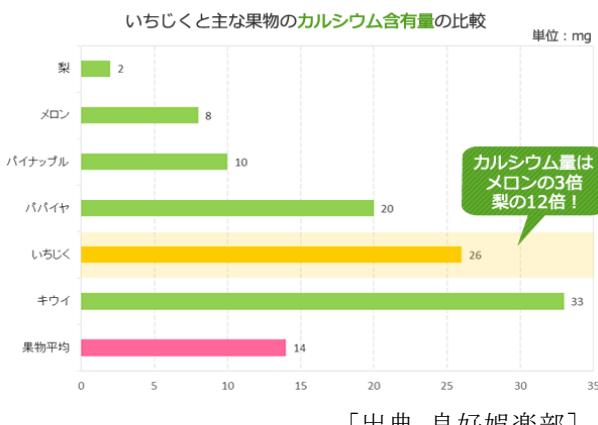
提案 1 でイチジクを使おうと思った理由は「東京いちじく」を多摩織と一緒に知ってもらいたいと考えたからだ。2017 年から八王子小比企町で栽培が開始された。

1.イチジクの効果

① アンチエイジング機能

ポリフェノール、カロテノイドが豊富に含まれている。ポリフェノール類は抗酸化作用をもつため劣化・老化予防につながる。

② 鉄欠乏性貧血の予防



[出典 良好娛樂部]

カルシウムや鉄分が豊富に含まれている。

③ コレステロール値の上昇抑制

食物繊維 (1.9g/100g) が豊富に含まれている。ペク

チンが血糖値の急激な上昇を抑え、コレステロール値の上昇を抑制。

2. イチジクの葉の活用

主に実の部分を食べるが、イチジクの葉は薬用としても使え、煎じて飲めたりお風呂に入れたりできる。

5. まとめ

今回、伝統工芸士の澤井さんにお話を伺いし、多摩織の技術は日本だけでなく海外にも認められていることが分かった。また高価格だけど長持ちし、長く持つから愛着が湧く商品を作つておられことを実感した。しかし、職人の数が減少している現状がある。澤井さんも物を作る人を教育する必要があると仰った。そこで私達はソーシャルメディアを活用する事で認知度を上げ、体験型イベント、手に取りやすい商品にする事で日常生活の中で伝統工芸品に触れてもらう。そこから物作りの楽しさ・価値を認識して欲しい。私たちは 400 年もの長い歴史を持つ多摩織、伝統的工芸品産業をこれからも伝えていきたいと思う。

6.参考文献

写真①無垢のポーチ

<https://item.rakuten.co.jp/ecomaco/yui-001-002/>

写真②ジャム

<https://ameblo.jp/photodesign9999/entry-12017894713.html>

写真③折り紙バッグ

<http://m-touch.jp/?pid=14067421>

経済産業省製造産業局伝統的工芸品産業室

<http://www.meti.go.jp/committee/materials2/downloadfiles/g80825a07j.pdf>

良好娛樂部

<https://ryoko-club.com/food/fig-nutrition.html>